

「つるカフェ市民講座ラジオ特別編～WITH コロナ時代をあきらめない」

村木厚子氏へのインタビューを放送しました

■問い合わせ先 高齢福祉課 ☎(32)8904

第8回つるカフェ市民講座（市在宅医療介護連携推進事業と共催）は、村木厚子氏の講演会を企画しましたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で中止となったため、電話インタビューを行い、8月15日にFMゆうがおで放送されました。

村木厚子氏インタビュー

Q. 冤罪で逮捕されるという逆境の中で、あきらめないパワーの根源は何だったのですか。

突然逮捕され、一夜にして自分では何もできない状況になりました。人は、突然支える側から支えられる側になるということ、そのとき強く感じました。

家族が自分のことを信じてくれたこと、友人や職場の同僚で応援してくれる人が多かったことに支えられました。また、娘のために頑張らないと、と思うことで支える側にもなれたことによって、自分の中で「もう大丈夫」と思うことができました。

Q. 両親の介護・仕事の不況・子育てなど複数の問題が生じたときに、どんな心持ちでいれば良いですか。

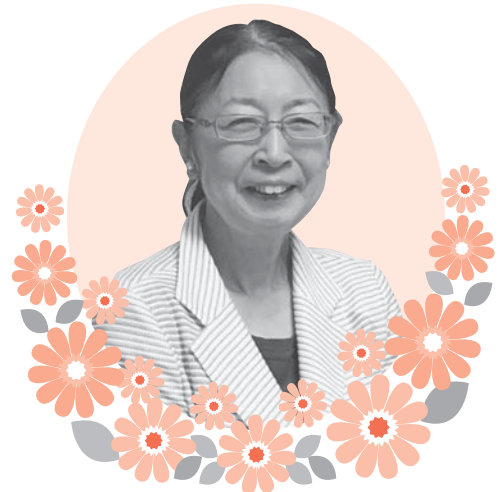
「今日できること」は、それほど多くはないことに気がつくこと。私は、「今日できることを今日だけ頑張る」と考えることで心が救われました。

Q. ラジオを聴いている方へメッセージをお願いします。

新型コロナウイルス感染症は、みんなが当事者で、みんなが協力しないと解決できない問題ですが、何かを変えるきっかけになると良いと思っています。

辛いときには、無理をせず、自分を抱きしめてあげてください。相談先もたくさんあります。元気が戻ったらまた歩きだしてほしいです。自分を大事にして、周りの人にも何かしてあげられると良いですね。

「あきらめない」「なんとかなる」という気持ちで、一緒に乗り越えましょう。



村木厚子氏の経歴

大学卒業後、労働省に入省し、キャリアを重ねる。

2009年に郵便不正事件で逮捕され、164日間拘留されるが、一貫して無実を主張し、翌年無罪判決となる。

復職後は、57歳で厚生労働事務次官に着任。

59歳で退官した後は、虐待や貧困で悩む少女を支援する若草プロジェクトを立ち上げ、活躍中。

企画・インタビュー：鶴岡浩樹・優子
(つるかめ診療所)

つるカフェとは？

下野市を中心とした在宅ケアに関わる医療・介護・福祉の専門職、地域包括ケア・地域共生社会に関心がある人を対象に、つるかめ診療所が開いている仮設移動型カフェです。東日本大震災後の平成23年6月から、地域医療、特に在宅医療における連携を構築してきました。

「防災からとりくむ地域包括ケア」「専門職のオシゴト」「WITHコロナ時代、私たちができること」など、多岐にわたるテーマで開催しています。

在宅医療介護連携推進事業とは？

市民の誰もが、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、地域における医療・介護の関係機関が連携し、包括的かつ継続的な在宅医療・介護を提供できる体制の構築を目的としている事業です。平成29年度から実施されており、医療・介護の専門職が集まって検討を行ったり、講演会を通して市民へ向けた啓発を行ったりしています。

9月から、FMゆうがおで毎週木曜日の正午から「しもつけピタッとラジオ」に市内病院・施設に所属する各専門職の方に出演していただき、在宅医療・介護についてお話しいただいています。